



日本国際飢餓対策機構 (Japan International Food for the Hungry : 略して JIFH) は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体 (NGO) です。1981 年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人材育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合 (Food for the Hungry International Federation) の一員として、18 ヶ国 60 の協力団体とともに、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、現地パートナーと協力しあって、「こころとからだの飢餓」に応える働きをしています。



**今年も全国で世界食料デー**  
今年のテーマは「ハンガーゼロの世界を目指して…平和と飢餓」です。9～11 月に行われる各大会では、飢餓啓発の講演や活動報告、音楽プログラムなどが行われます。大会ポスターも完成、ぜひ参加して頂き一食募金運動にもご協力をお願いいたします。詳しい問い合わせは東京事務所まで。

**使わない本は愛知事務所へ**  
「**本 de リンク**」を活用ください  
愛知事務所では、使わなくなった本や CD やゲームソフトなどを集めています。届けられた本は、買取店で換金し、飢餓と貧困に苦しむ方々のために用いさせて頂いています。  
●本 de リンク 5～6 月報告  
本 461 冊、CD119 枚、DVD34 枚  
ゲームソフト 17 本  
換金額：37,046 円  
●書き損じ葉書でも支援 (未投函のみ受付。各事務所までお送りください。)  
・2011 年実績 3252 枚 140,802 円

## ハンガーゼロ・サポーター大募集中！

今すぐ▶▶▶  
各種支援の  
お申し込み  
ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

いいね!  
フェイスブック  
公式サイト  
開設しました

当機構の Facebook 公式ページ『ハンガーゼロ「日本国際飢餓対策機構」』を開設しました。Facebook は世界最大のソーシャルネットワークサービスとして注目を集めています。  
今回立ち上げた公式ページでは当機構のイベントのお知らせや活動報告、支援先の様子、海外のニュースなど様々な情報を発信しております。Facebook アカウントをお持ちの方は Facebook

ページ上で「ハンガーゼロ」と検索して下さい。「いいね!」をクリックし、ファンになることで、当機構のニュースがご自身のウォールに反映されるようになります。さらに当機構のニュースに対して、あなたが「いいね!」を押すと、その内容があなたの友達に紹介されていくのです。ハンガーゼロの世界実現を目指して、世界の現状を多くの方に知っていただきましょう。あなたの「いいね!」から始まる、ハンガーゼロ! ぜひご協力ください。

- ☐ ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。  
毎月 ( ) 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ チャイルド・サポーター (世界里親会) になりたいので説明書 (申込書) を送ってください。
- ☐ 海外スタッフ・サポーターとして協力します。  
毎月 ( ) 円 (1 円 1,000 円)
- ☐ JIFH (日本国際飢餓対策機構) サポーターとして協力します。  
毎月 ( ) 円 (1 円 500 円)
- ☐ 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- ☐ その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ  
氏名: \_\_\_\_\_ 男・女

フリガナ  
住所: \_\_\_\_\_ 〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ (電話) \_\_\_\_\_

▼申込日: \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日▼

**FAX・072-920-2155**

ハンガーゼロ・サポーター 2173 円。ぜひあなたのお知り合いにもお知らせください。



日本国際飢餓対策機構

2012 No.265

8

# 飢餓対策 News



フィリピン・ミンドロ島のスクールバスプログラムで村から毎日学校に通えるようになった学生たち (6、7 面に記事)

日本国際飢餓対策機構の働きは、二つの飢餓に立ち向い、その救済を必要としている人々と共に生きる働きです。「二つの飢餓」とは、言うまでもなく霊的飢餓と肉体的飢餓を意味します。このことは聖書全巻が示す神の宣教の目的とも符号します。神の宣教とは、人間の罪と悪によって破壊された地球環境や人間、動植物を救うためにイエス・キリストが遣わされたその働きに参加することです。神が創造され、人間の罪によって破壊された世界をイエス・キリストによって救うという神の宣教は、福音伝道、教会教育、社会的あわれみと正義の実践、自然環境の保護にまで及ぶ実に「包括的な宣教」を意味します。

どんなに衣食が足りていても、魂が飢え渴いている多くの人がいます。イエス・キリストによって成し遂げられた十字架と復活による救いは、霊的飢餓に苦しむ人々に完全な救いをもたらします。福音宣教により、その霊的飢餓の救済が進められれば進められるほど、一方では肉体的飢餓に苦しむ人々と共に生き、その肉体的飢餓の対策と救済を願わされるのです。愛の翼は片方だけでは用をなしません。どうしても両翼が必要なのです。

先日、岡山県に所在する香登(かがと)教会では、オー

ブン・チャーチ・デイという活動をしました。JR 香登駅は無人駅です。そうした一地方教会に日頃の礼拝者に加えて、多くの新来会者や地域の方々が参加されました。礼拝では、音楽プログラムとともに福音のメッセージが語られ、礼拝後は、教会員あがての楽しいイベントや様々な食品バザーが、礼拝堂、ゴスペル・ホールや境内地を最大限に用いて行われました。

参加者の中には、東日本大震災への救援と世界中で飢餓に苦しむ人々への救済というオープン・チャーチ・デイの目的を知って、自発的に食品を提供された地域の人やお店もありました。その収益金や自由献金のすべて

は、日本国際飢餓対策機構を通して、東日本大震災の救援復興と国際飢餓献金に送らせていただきました。福音伝道と愛のわざという両翼宣教の大切さを教えられた一日でした。

「主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いづくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。」(ミカ書 6 章 8 節)

日本国際飢餓対策機構 全国賛助会 副会長 工藤弘雄  
(日本イエス・キリスト教団香登教会牧師)

1 分間に 17 人 (うち 12 人が子ども) ・1 日に 2 万 5 千人 ・1 年間では約 1,000 万人が、飢えのために生命を失っています。

|       |                                                                    |    |                                                                                |
|-------|--------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------|
| ■発行者  | 岩橋竜介                                                               | 大阪 | 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1<br>TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155                 |
| ■発行所  | 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構                                                  | 東京 | 〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 517 号室<br>TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782   |
|       | Web サイトアドレス http://www.jifh.org/<br>e メールアドレス general@jifh.org     | 愛知 | 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター 2F<br>TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114 |
| ■募金方法 | ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで                                         | 広島 | 〒730-0036 広島市中区袋町 4-8 CLC ブックス 2F<br>TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037       |
|       | 身近に<br>便利に<br>なりました                                                | 沖縄 | 〒901-0156 那覇市田原 3-8-1 ユリ香ハウス 201 号<br>TEL (098)859-4585 FAX (098)859-4540      |
|       | ●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構<br>●他の金融機関からの自動振替 ●クレジット、デジタルコンビニ | 東北 | 〒980-0012 仙台市青葉区錦町 1-13-6 エマオ 2 階 E<br>TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651     |

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所 (八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業のご協力をしてくださっています。



# ハンガーゼロ・アフリカ ジンバブエ・プロジェクト エイズの子どもと家族を支援

深刻な食料不足で支援を求める地域が拡大



ジンバブエ



エイズに苦しむ家族に食料を渡している様子

アフリカの厳しい環境の中、今年も皆様のご協力をいただき、ジンバブエのエイズの子もたちの支援を続けることができ心から感謝しています。私たちが活動している地域Seke District（セケ郡）には、21ヶ所のWard（行政区画の一つ）があり、セケ郡には500人以上のエイズ児童が暮らしています。私たちのセンターが属している地域Nemasanga Ward（ネマサンガ区）には、約50人のエイズの子もたちがいますので、この子どもたちに食料を支援しています。

このネマサンガ地域だけではなく、他の地域からも支援をしてほしいと要請があり、3月からは毎月、他の地域も巡回しながら、100人のエイズ児童とそのその家族に食料支援をしています。この活動を通じて私たちが学んだことは、地元の人々、特に田舎に住んでいるエイズの子もたちの食糧問題は、私たちが考えているより

ずっと深刻だということです。10kgのとうもろこしの粉一袋を受け取るために、子どもたちは2～3時間かかる距離を歩いて来ます。そしてその袋を頭に載せて再び来た道を歩いて戻ります。子どもたちには重労働なので、母親や祖母が同行していることもあります。一袋のとうもろこしの粉や卵一箱をもらうために、長い道のりを往復する子どもたちを見ると本当に心が痛みます。食料を受けとって明るい笑顔で帰っていく子どもたちの姿を見て、この活動をして良かったと思わせるのも事実ですが、同時にこの働きがこの地域の人たちにとってどれほど重要であるか思い知らされるのです。

## 祈りと聖書で励まし

私たちは毎回食料を配るときに、まず賛美をし、現地語で挨拶をして子どもたちの心を開きます。そしてお祈りと聖書の言葉で

励まし、子どもたちの心に自分に対する誇りと神様に対する信頼の心を持つようにと願いながら活動しています。

今はとうもろこしの粉と卵を配っていますが、今後は子どもたちの栄養状態を考えて、現地で生産されている鶏肉や魚、緑の野菜、いろんな果物を一緒に支援することが出来るようにと祈っています。

日本国際飢餓対策機構および支援者の皆様、この給食支援活動のためにこれからもどうぞ関心を持ち続けてください。そして、このエイズの子もたちと家族が給食支援を通じて神様の愛を頂き、周りの仲間を助ける人に成長できるように、お祈りをお願いいたします。最後にこのために一緒に働いている地元スタッフの健康が支えられるようにもお祈り頂ければ幸いです。

（報告：ジンバブエF Hディレクター・ヒョン・ネシック）

## 「置き薬プロジェクト」この1年の経過報告

当機構は昨年6月から2年間の期限で、仮設住宅などに入居された被災者の生活支援として「置き薬プロジェクト」を中京医薬品（本社愛知県）をパートナーに、仙台市と名取市でスタートしました。2年間にわたり、家庭用常備薬を無償で提供、被災者の生活再建の負担軽減をはかっています。この1年の取り組みについて中京医薬品・仙台南営業所の高橋広行所長に聞きました。



東日本  
大震災  
被災者支援レポート

仮設住宅の個別訪問や利用実績で気づいたこと

## 病院は無料でも仮設からは遠く、交通費が出ない 小規模仮設住宅で孤立感を感じている方が目立つ

Q現在までの置き薬の設置状況について教えてください。

置き薬は、昨年の6月から7月末にかけて、仙台市内と名取市内の仮設住宅入居者の606世帯に設置し、いまま継続的にご利用をいただいています。この中には、民間のアパートなどを行政が借り上げて入居されている世帯も少し含まれています。

Q薬の補充などで訪れた時に入居者との会話の中で気づいたことはありますか。

置き薬は、どちらかと言えば若い世代といいますが、まだ比較的小さなお子さんをもつ世帯の利用が多いようです。そのため、冬は風邪薬の補充のリクエストが多かったですね。またそれ以外の傾向として、震災後の疲労やストレスの影響かと思いますが、湿布薬、目薬、胃腸薬など通常でもよく利用されるものの使用量が震災前の月平均よりも高くなっています。

それとともに、「仮設住宅から病院が遠いので置き薬を使っています」とか「病院の治療費は無料でも、行くまでの交通費がかかるから…」（住宅半壊以上の世帯に対しての行政による医療費支援、今年9月まで実施予定）というような切実

な声も時々聞きます。

Q当機構のパートナーとして置き薬プロジェクトに取り組んでいたいて、この1年はどうでしたでしょうか？

ある意味で今回のような支援活動に加わるのは、私たちも初めての経験でした。そういう意味では、よい勉強をさせていただいています。とくに、本業である医薬品を通じて、震災復興に少しでもお役に立てることは大きな喜びですし、皆さんと同じ被災者としても励みになります。飢餓対策さんの応援で無償で2年間も薬を提供させていただけることで、利用者を訪れる度にとっても感謝していただけましたし、会社としても顧客減少傾向に少しでも歯止めとなっていることはありがたいです。

Q当機構としては、中京医薬品さんの定期訪問を通じて、被災者の皆さんの状況を知って、それに応えていければと願っています。最近気づかれることはありますか。

個別訪問は2、3ヶ月毎に行うようにしています。薬の補充を求められましたら、その都度行かせていただいています。そのような連絡をやり取りできる方は、よいのですが、心配なのはお一人で暮らしておられる方です。時間の経



過とともに、閉じこもり気味になる方もおられ、ドアを叩いても扉すら開けてくださらないこともあります。一人暮らしが続く男性の方の中には、家の中にゴミが散乱していて、誰も入れたくないという方もおられるようです。また、小規模の仮設住宅では、独自のイベントや外からのボランティア訪問も少なく、入居者同士の交流もあまりないようです。一方で大きめの仮設住宅では、自治会組織がけっこう動くので、交流イベントを通じて、以前よりも表情が明るくなってきておられる方々もみられます。

Qあと一年この取り組みが続きますが、今後の方針は。

地道に訪問して、お声をかけ続けていくことだと考えています。また、利用者の中には、「申しわけなくて」と薬を使うのをためらうお年寄りの方もおられますので、そういう方にも安心して利用していただけるように、お声かけや励ましをさせていただければと願っています。



世界里親会  
ケニア

# スラム地区の子どもが 学べるように愛の手を

## シープケア学校



ケニアの首都ナイロビ郊外にあるソウェト・スラムでは、電気・水道などのインフラが整備されておらず、ほとんどの人達が土壁やトタンの家に住んでいます。一人あたり一畳あるかないかのスペースに大勢の家族が寝起きしており、子どもたちは土間に寝ています。下水の設備がないため、不衛生でマラリア感染の危険もあります。失業率が40%以上とも言われる不況が続く中、定職についている親はほとんどいません。シングルマザーも多く、路上で物売って日銭を稼ぎ、1日1食がやっとという生活を送っている家庭

がたくさんあります。

今から十数年前、ITコンサルタントとして政府の仕事をしていたルーク氏は、このスラムから数キロのところで、賃貸アパートの建設を手掛けていました。ケニア西部の村で生まれ、貧しい幼少期を過ごしてきたルーク氏は、「これで妻と幼い子どもたちに良い暮らしをさせてやれる。苦勞して育ててくれた田舎の母にも樂をしてもらえる」と明るい未来に心躍らせ、アパート建設のために一生懸命働いていました。

### 幼い頃の自分との葛藤の中で

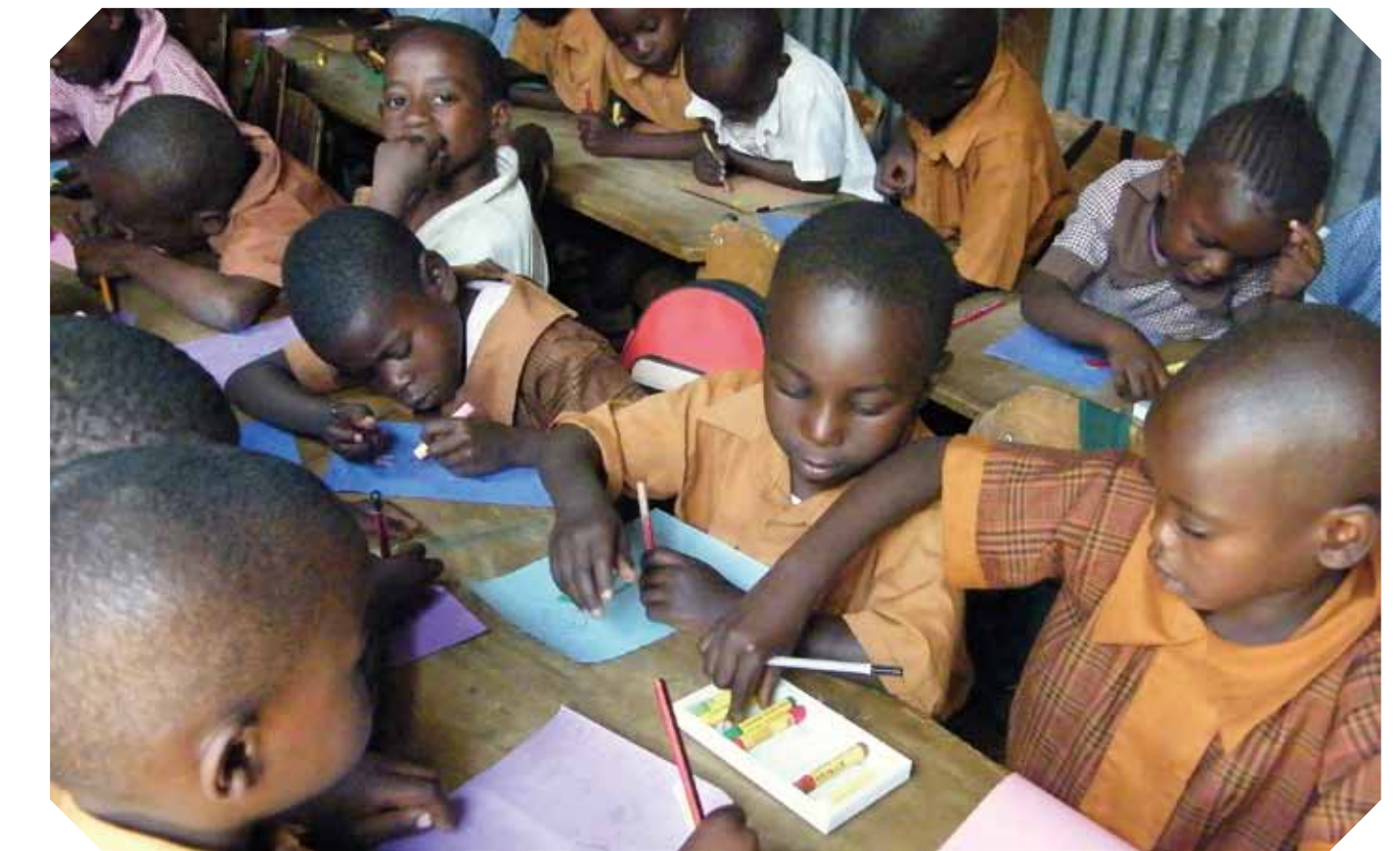
その建設現場でルーク氏は、裸に近い状態でたった1杯のお粥を乞うために数キロの道のりを歩いてやって来るソウェト・スラムの子どもたちに出会いました。毎日代わる代わるやって来るその子どもたちに食べ物を与え、衣類を着せてやりながら、ルーク氏は自分自身の幼い頃の記憶と葛藤していました。

父親を亡くしてからの貧しい生活。学校へ通う機会を与えてくれた教育支援プログラム。貧しい暮らしの中で学校へ通う

自分を支えてくれたたくさんの人たち。「ここには、家もなく、世話をしてくれる親もなく、たった1人で食べ物を探し求めている子どもたちがいるのに、自分は家族の暮らし向きを良くすることばかりに必死になっている」。そう思い悩むルーク氏に、「たとえ全世界を手に入れたとしても、宝を天に積むのでなければ何の意味があるのか」という声が心の中にはっきりと聞こえました。

### 失業中の若者との出会いから

ルーク氏は、アパートの建設を断念して牧師となり、有り金をはたいてソウェト・スラムに土地を購入し、教会を建てました。子どもたちの可能性を信じ、地域の変革を語るルーク牧師のビジョンに動かされて集まって来たのは、失業中の若者たちでした。無一文の牧師と失業中の若者。何も持たない彼らにできることなどないように思われましたが、祈りの中で与えられているものが見えてきました。「1週間のうち、6日間使われていない教会の建物」と、「職につけず時間を持て余している若者たち」。ルーク牧師は若者たちに語り始めました。「“金に



ならないから何もしない”ではなく、“金にならないけど何かをしよう”」と。彼らは路上に出てストリートチルドレンに教育を受ける必要性を話してまわりました。こうして2002年、たった2人のストリートチルドレンからシープケア学校は始まりました。

### 里親会による支援を開始

10年経った今、シープケア学校では幼稚園から高校まで400人の子どもが学んでいます。常に、児童労働、性犯罪などの危険にさらされている子どもたちが、学校に通い続けられるように、そして子どもたちを

通して地域が変わっていくことを目指して、世界里親会による支援が始まりました。

慢性的な栄養不良に苦しむ子どもたちの栄養状態が改善され、集中して勉強が続けられるようになるには、学校給食は不可欠です。食料価格が2倍3倍と高騰する中でも、何とかこの給食を続けていかなければなりません。また、スラムの家庭では、教科書や筆記具などの必要品を揃えることは困難です。シープケア学校では、貧しい家庭の子どもたちの学習環境をできるだけ整えたいと願っています。そして、将来は、地域の人々が自分たちで地域の子ども

たちを支えていけるようになることを目指していきます。1人でも多くの子どもが教育を受け、地域をそして世界を変える力となれるよう、チャイルド・サポーターとなって子どもたちをご支援ください。

## サポーターを募集中!!



世界里親会では、シープケア学校の子どもたちをご支援くださるチャイルド・サポーターを募集しています。子どもたちが学んで笑顔と将来への希望を持つことができるように、共に応援してください。支援のお申込みは、大阪事務所世界里親会まで。最終面の申込み欄から、ファクシミリで資料請求もできます。



シープケア学校のスタッフとルーク氏（左手前）その右横に当機構・浅野



子どもたちの多くはこのような簡素な住居で生活



給食前に“手洗い”を習慣づけています



学校給食で子どもの栄養状態が改善されています



# 子どもたちの夢を乗せて快走中

いつもフィリピン、ミンドロ島、サンアンドレス村のためにお祈り  
とご支援を心から感謝致します。  
活動を始めて4年が過ぎました。

サンアンドレス村の持続可能な開発プログラムの一環として、子どもたちの教育をどう支援するかというところから始まった、スクールバスプログラムへの支援は、第一期目が終わりました。スクールバスのプログラムを3年間支援して下さい、本当にありがとうございました。村にはハイスクール（小学校6年の後の4年、日本の中学校に当たります）がなく、ジブニー（小型乗り合いバス）で片道3時間かかる町の学校に行くには、寮や親戚の家にお世話になるか、また進学をあきらめるしかありませんでした。

サンアンドレスで活動する中で、二つ向こうの村（約10km）にハイスクールがある事がわかり、スタッフが「ジブニーを出してくれたら運賃、払うのに」という保護者の声と「運賃を払ってくれたら、ジブニーを出すのに」という声を聞き上げて、このプログラムが始まりました。当初、1台の予定が、親元を離れて町の学校

に行っていた子どもたちも村に帰って来て、なんとジブニー2台、約60名がこのプログラムで通学を始めました。そして村に平日でも若者たちを見かけるようになりました。2009年にプログラムが始まって、今年の卒業生は3年間村の仲間たちと同じジブニーで通学し、友情も芽生えたようです。参加者の中にはハイスクールに進学するのを断念していた子どもや、復学した子どもたちもいました。

## 村人による自主運営に

プログラムの支援は3年の計画で、当初は経費の75%、2年目は50%、3年目は30%を支援、今年の6月からは保護者たちだけで運営する事になっています。今までは予算を立てる事もなかった委員会が年間予算を立て、またグループを県に登録する準備を始めました。住民の自主的な活動に対する行政の経済的な支援があるからです。集まって何かをする、ということが難しいこの村で新しい動きが始まりました。

感謝の手紙の中で「志をもつようになった」「わたしも人を助ける人になりたい」「貧しさの中から立ち上がることができた」と書かれていたことは私たちにとって大きな喜びでした。なぜなら開発は考え方、世界観が変わる



保護者によるスクールバス委員会

事から始まるからです。子どもたちが夢をもってこの村を変えていってくれることを期待しています。

村では保護者たちが自分で子どもたちの学費を手に入れる事ができるよう、収入改善プログラムや指導者要請プログラム、少数民族支援が引き続きもたれます。ハイスクールの子どもたちに対しては、経済的に苦しい家庭で学習意欲のある子どもたちを支える支援を、この6月から始める予定です。神様からいただいた知恵と与えられた資源を用いて保護者たちが立ち上がり、子どもたちが「お父さん、お母さん、学校に行かせてくれてありがとう!」と言える日が来るようにと願っています。引き続きお祈りとご支援をよろしくお願い致します。ビジョンを持つとき、道は開けてくると確信しています。

（フィリピン駐在員・酒井慶子）

## 私もこれから手助けします

皆様のご支援、スタッフを通して教えられた事、そしてそのことを通して私が強く、また前向き



になれたことを感謝しています。皆さんに倣って優しい、良い人になりたいと思います。スクール・バスのプログラムをありがとうございました。みなさんが私の人生の中でして下さい、また他の生徒たちにして下さった大いなることを決して忘れません。

青年部長として若者が常に正しく親切な人となるよう手助けします。ありがとうございました。皆さんのことを愛しています。

ジョナル・ベルドン

## 志を追い続けました

スクールバス・プログラムを支援して下さい、わたしの夢をハイスクールで実現させて下さったことを感謝します。通学する道を備えて下さり、遅刻をする事もなく学校に通う事ができました。自分の志を追い続けるよう導



いて下さった皆さんがいつも祝福に満たされるようお祈りします。私は決して

皆さんのことを忘れません。皆さんはいつも私の心の中におられました。神様が皆さんを導かれると信じています。

ジェローム・ガーソン・ラモス

## 両親と暮らせました

私たちのスクールバス・プログラムや私たちの村、サンアンドレスのためにして下さい、ことに感謝致します。

イナラワン・ハイスクールで生徒



たちが勉学に励む事が出来るよう助けて下さり、ありがとうございました。このプログラムのおかげで毎日両親のそばにいられたことができました。

皆さんがして下さい、すべてのことを感謝します。

エドワード・カピオ

## 夢に近づけました

私たちを支援して下さい、事をとても感謝しています。本来なら学校に行く事ができなかった私たちが皆さんに支えていただいて家の近くの学校に行くことができ、毎日、家族と顔を合わせることが出来ました。

忍耐をもって支えて下さりありがとうございました。私たちは自分の夢に近くづく事ができました。高校生活をする事ができ、私たちの人生がよりよいものにな

る道を備えて下さいました。

私たちを助け

て下さり、私たちに与えて下さったものをありがとうございました。また皆さんは私たちを導いて下さいました。私たちもいつの日か皆さんが助けて下さったように他の人たちを助けます。私たちがそのように出来たとき、この村にきて、いっしょに祝っていただけたらと願います。

デルフィン・パフッドボッド

## 神様からの贈り物でした

サンアンドレスに住む高校生の私や私の友だちを3年間支援して下さい、ありがとうございました。皆さんは神様が私たちに下さった贈り物です。なぜなら皆さんがいなかったら、私たちの生活は今のようではなかったからです。皆さんがどんな方で、どこにおられるかは知りませんが、私たちを娘や



息子のようにして下さい、友だちのように良くして下さい、仲間のよう接して下さいました。

皆さんがして下さい、すべてのことを感謝しています。私たちは貧しいですが、貧しさの中から立ち上がり、私たちの夢を追い求め、夢を達成する事ができるということを学びました。

マリベル・マラリット

（お父さんは病気で亡くなられ、お母さんが家族を支えておられます。）



友だち同士で励まし合えるように月1回アクティビティをしています